

会派行政視察報告書

報告者 真志会 桑原一知

1. 派遣者

(真志会) 真野頼隆 谷口明弘 小路貴紀 桑原一知 木戸理江

2. 視察の概要

令和3年11月8日(月)

- ① ONOMICHI U2 (尾道市)
- ② 道の駅「よしうみいきいき館」(今治市)
- ③ 道の駅「小松オアシス」(西条市)

3. 視察内容

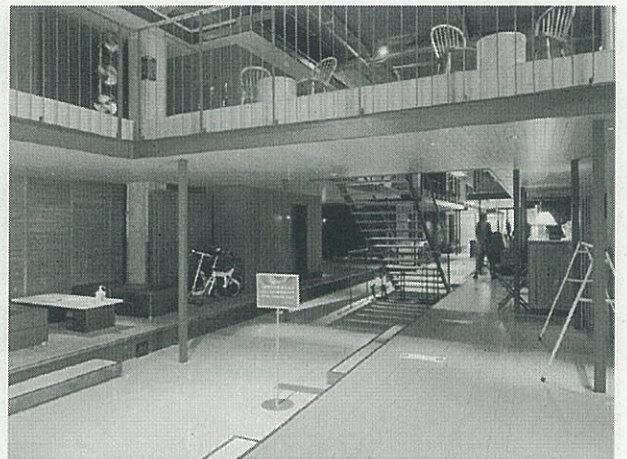
① ONOMICHI U2

「ONOMICHI U2」は全国初のサイクリスト向けの複合施設で、旧港湾施設「県営2号上屋」を再生し、自転車に乗ったままチェックインができて、そのまま部屋まで持ち込めるホテルも併設されたショッピングモールです。

また、サイクリングポートみなとオアシス尾道としてトイレ、給水はもちろん、レンタサイクル、屋根付きの駐輪場からコインロッカーも整備、さらに有料の温水シャワーも設置されています。

また、世界最大の自転車メーカー、GIANT ブランドが提唱する「RIDE LIFE=ライドライフ」を具現化したジャイアントストアがテナントとして入居しています。

この他にもレストラン&バー、カフェ&ベーカリーや物産など備後地方地場産業の品を販売する店舗も入居しており、全体的におしゃれな空間になっている。

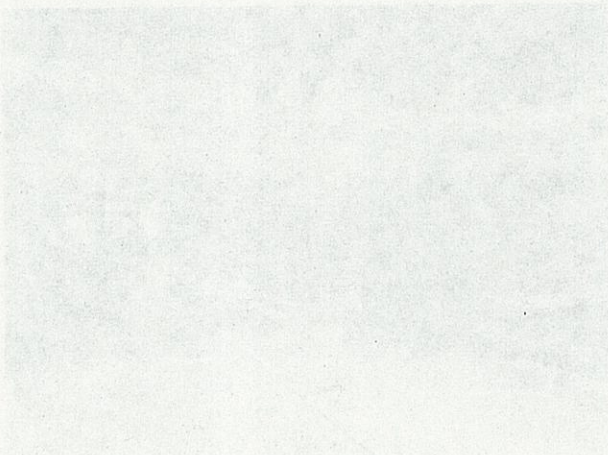


②道の駅「よしうみいきいき館」

道の駅「よしうみいきいき館」は、愛媛県今治市吉海町名にある国道317号の道の駅で、「株式会社しまなみ」が管理運営を行っている。

隣接している瀬戸内の多島美や日本三大急潮流の一つとして有名な来島海峡の急流を間近に体験できる「来島海峡急流観潮船」は急流が渦巻く中、世界初の三連吊橋「来島海峡大橋」を海上から臨み、日本一の海事都市「今治」の象徴である造船所群を湾内からも見学できる見どころ満載です。

館内にはレストラン、特産品の販売や鮮魚コーナーもあり、自分で鮮魚を選び七輪バーベキューも堪能できる。



③道の駅「小松オアシス」

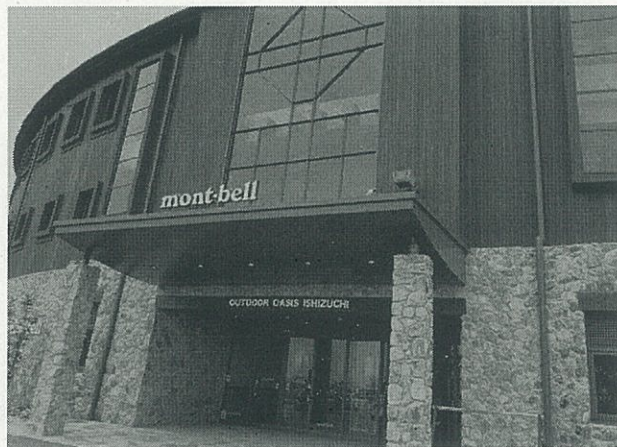
道の駅「小松オアシス」は、愛媛県東部、松山自動車道の石鎚SAに隣接し、一般道だけでなく松山自動車道からも利用が可能な「道の駅」です。2019年7月1日にアウトドア活動拠点施設としてリニューアルオープンしている。

山の情報、観光情報、道路情報を収集できる「ビジターセンター」のほか、高さ約6mの本格的なロープクライミングが体験できる「クライミング施設」を整備。アウトドア総合ブランドのモンベルが運営する「モンベルストア」では、アウトドアに関する商品を多数揃えてある。

同敷地内の産直市場「おあしす市場」では、地元生産者が毎日新鮮な野菜を出荷、市内等の特産品やお土産品も販売しており、カフェも併設している。

また、隣接する「椿温泉こまつ」は、高台に位置し、瀬戸内海の多島美と市内を一望できるパノラマ眺望が楽しめる。

さらに足湯も完備されている他、併設するレストランでは、地元の野菜を使ったタニタ監修メニューや定食などもある。



4. 所感

今回もコロナウイルス感染予防を踏まえ、観光での誘客を目的に視察を行った。

「ONOMICHI U2」はサイクリストに特化した施設であるが、おしゃれな空間という事もあり、若い方のお客さんが目立った。

道の駅「よしみいきいき館」は、本市の新物産館と類似しているが、鮮魚コーナーがメインであり、地元農産物やお土産コーナーが狭い様に思えた。海鮮バーベキューは自分で鮮魚や肉、野菜などを選ぶことが出来るので、売り上げも上がり、販売手法としては魅力である。

また、隣接する「来島海峡急流観潮船」は現在40万人の乗船数を超えており、誘客の目玉になっている。

道の駅「小松オアシス」は一般道と松山自動車道から利用が出来る事が利点である。またアウトドアに特化した施設や温泉、キャンプ場も隣接しており魅力である。

今回の視察では、何かに特化した施設といったターゲットがしっかりしており、最も重要である。

熊本県で進められている、サイクリングでの観光に水俣市もどの様に係わるのか、「日本一長い運動場」「自転車のまちづくり事業」を再度考えるいい機会になった。

また新物産館「ミナマータ」、木のおもちゃ館「きらら」を軸に海・山など観光資源を活用し誘客を進めなければならないと感じた。

真志会行政視察報告書（愛媛県・徳島県・香川県）

真志会 木戸理江

1. 派遣者 真志会：真野頼隆、谷口明弘、小路貴紀、桑原一知、木戸理江

2. 視察日時、視察先、視察項目

2021年11月8日（月）～10日（水）

広島県（尾道市）、愛媛県（しまなみ海道・道の駅）、徳島県（三好市、板野市）

香川県（高松市、坂出市）

3. 視察概要

2021年11月9日（火）

徳島県三好市：大歩危小歩危、道の駅・ラピス大歩危、祖谷溪谷・かずら橋、小便小僧 等
水俣の道の駅リニューアルに向けた、他施設の視察。

◇三好市 道の駅ラピス大歩危

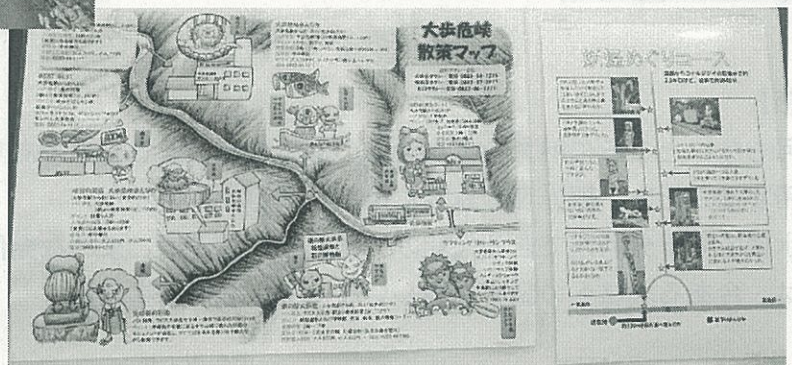
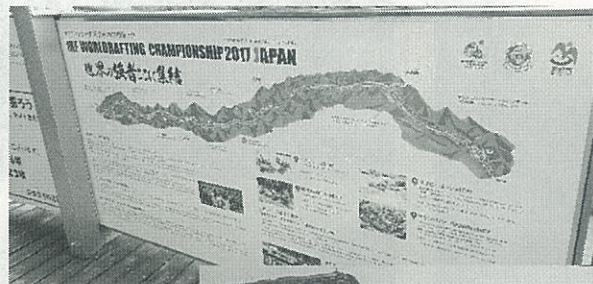
変成岩が連なる溪谷にある物産館。

土地の特徴を活かし、川下りの発船場ともなっている（徒歩でかなり下の川まで下り乗船）。

物産直売所・土産物・石製品・ジビエレストランなどからなり、売店そのものは大きくはないが
こなきじじいの発祥とし「妖怪屋敷」が敷地内にある。有名な妖怪作家のパネル展示も目を引く。

児啼爺やジビエバーガーなどののぼりが目立ち、つい入りたくなる。サインは大事。

他にも展望デッキに「ラフティング選手権」や「観光列車に手を振ろう」などのキャンペーンが
看板設置してあり、単なる物産館としてだけでなく他のイベントや特長がうまく宣伝してある。



◇祖谷溪谷 かずら橋

コロナ前までは年間約40万人の来訪者があったという。

今は「半分以上」になっているとの事だが、それでも20万人近くの人が訪れている事になる。視察当日も平日午前中にも関わらず多くの人を訪れていたが、場所は非常にへんぴで途中も狭い道路がくねくねと20キロ以上も続く不便な場所。

天然のかずら橋というたった一つの目的地だが、山奥にも関わらずWi-Fi環境が整っており多くの若者や外国人がSNSで発信することで「不便なところだと理解したうえで」訪れる人が絶えない。

ルート上に小便小僧の像があるスポットも、せり出した崖の上に小さな像があるだけだが、SNS上ではかなり有名でいわゆる「映え」写真を撮るために、かずら橋同様車が必ず停まり一様に写真を撮る。

川の流れが大きく湾曲している部分も、ネットで「祖谷溪谷」と検索すると最初に「ひの字溪谷」と出るほど拡散されていて、ただのカーブの場所が一つの名所になっていた。

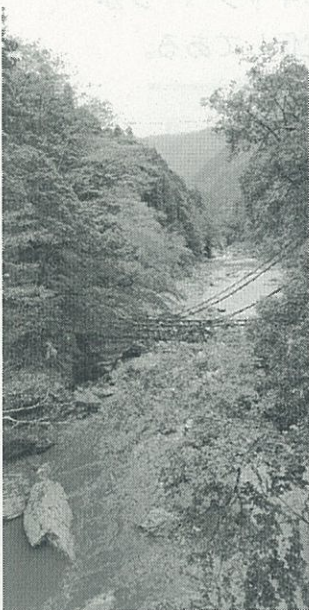
少しだけ駐車スペースを取っているだけで、車を停めて写真を撮っている人が沢山いて、ここからまた発信され観光客の増加に繋がるのであろう。

大きなものを作らなくても、名所だと発信するだけで人は必ず動かし、そこに後から土産物や飲食店がついてくる形でも成功する事例だと思った。

仕掛け作りをすることと、それをどう時代のニーズに乗せていくかが大事だと理解した。

かずら橋は、眺めるだけでもいいが実際渡りたい人は直前で券を買う仕組み、500円/大人。余程の恐怖心がない限りは「この距離ならせっかくなので渡ろうか」という気持ちにさせるだろう。駐車場は広く、隣接して大きな建屋の物産館、一度そこを通り土産を物色して、帰りに再び通る時に買物をするようにうまく誘導できている。

直近にはタクシーや障がい者などしか車で近寄らないため、周辺が混雑することもない。



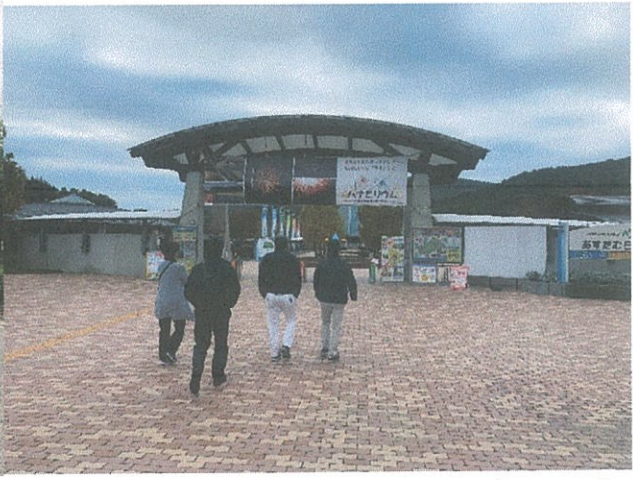
【所感】

何もないところに魅力を見出せるのはその地に居るものであり、発達している発信方法を積極的に活用することで、観光客の誘致に確実に繋がる例を見た。

水俣でも十分利用できる仕組みであるし、あとはこまめな発信と、丁寧な受入れ体制の整備さえすれば、今ある地域への誘客も難しいことではないと考えた。

視察報告書(徳島木のおもちゃ美術館)

No.1



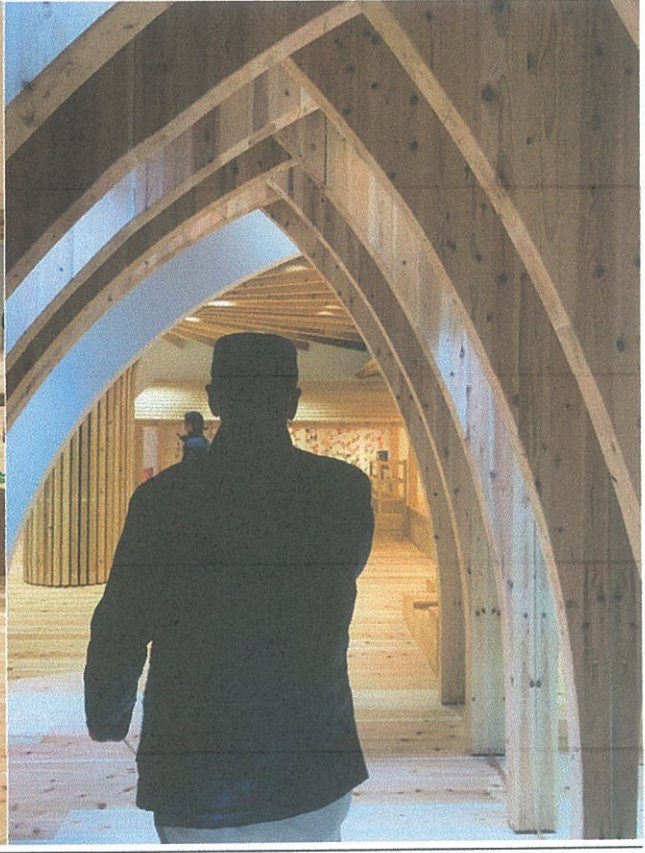
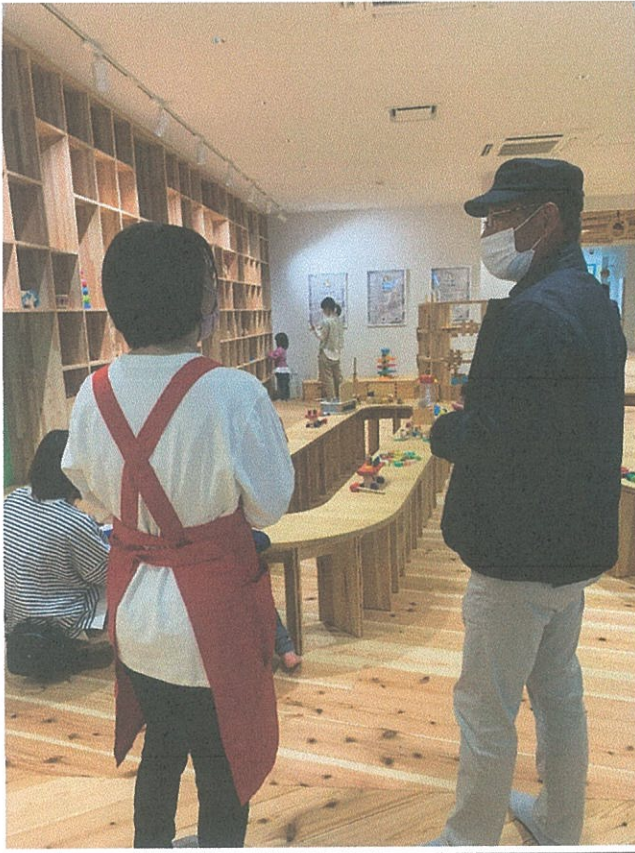
駐車場入口にある立て看板 あすたむらんど入口

あすたむらんどは「学ぶ」「遊ぶ」「体験」できる県立の氷と緑と光の交流施設である。一部の施設は有料だが基本的に入園無料で児童・生徒の遠足地として賑わっている。



令和3年11月9日(火) 真志会 5名で県立「徳島木のおもちゃ美術館」を訪れた。元、アクアリウムだった所をおよそ5億円をかけてリフォームし、木のおもちゃ美術館に作り変えた。徳島県は県の千分の3を森林が占めることから、木育の重要性を県知事自ら感じ、全国で初めての県立の木のおもちゃ美術館となった。令和3年10月24日にオープンし、土、日に約700名、平日に約350名の来館者がある。

視察報告書(徳島木のおむちや美術館) No.2

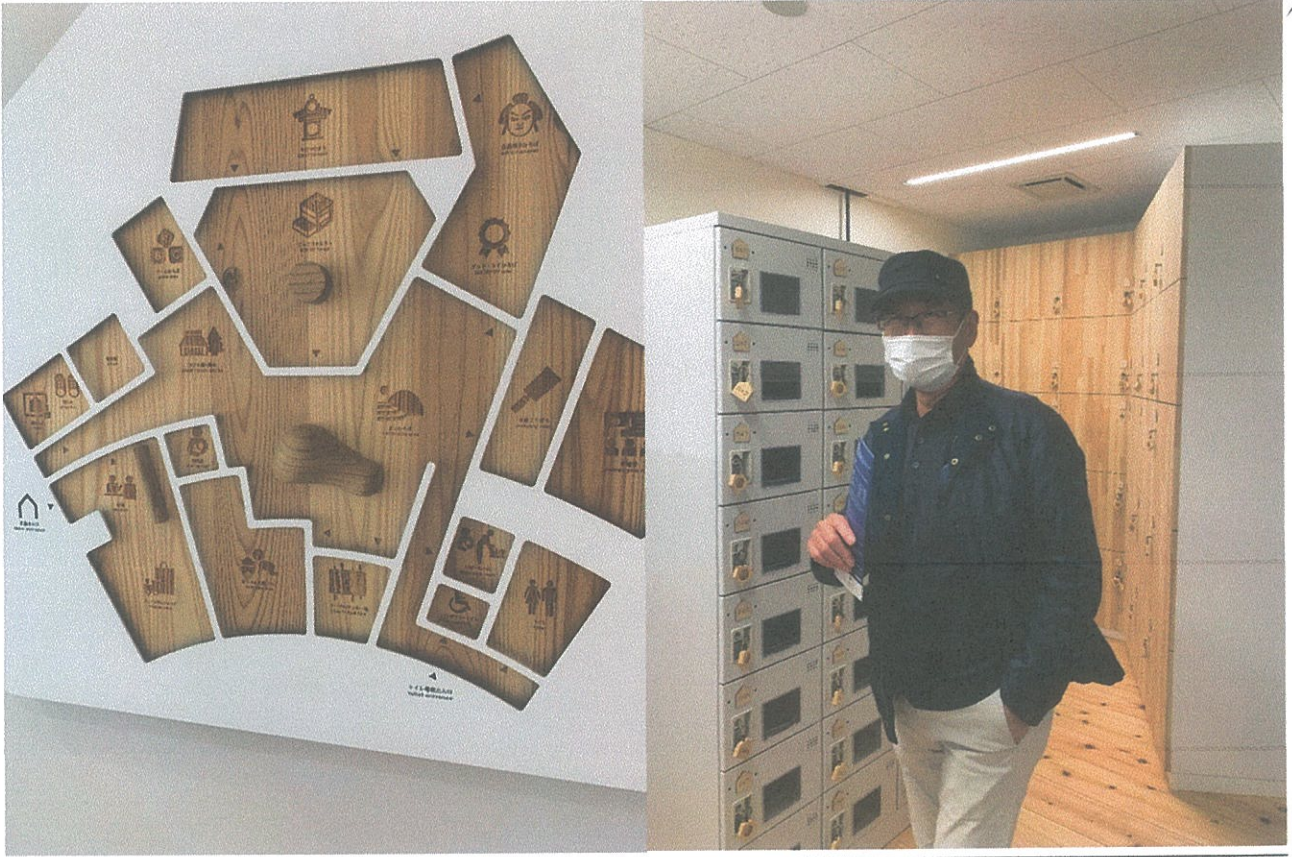


館長より説明を受ける 徳島県産材を使った館内



運営は指定管理者である株式会社「あわか」が行い、有償のスタッフと無償のおむちや学芸員のボランティアにより来館者の対応にあたり、徳島の伝統工芸にも力を入れていて、多数の伝統工芸品や美術品が展示されていた。

視察報告書(徳島木のおむち美術館) No.3



いろいろなロゴをあらわす
告知板

靴箱の前



木々をくぐりぬけていく
「不育のこみち」

徳島木のおむち美術館 全景

視察報告書

視察地:道の駅うたづ臨海公園 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁4

日時:令和3年11月10日(水曜日)

視察内容:恋人の聖地のモニュメントや、塩田の設備を再現して展示し観光資源としている。水俣の道の駅との共通点もあり、どのような集客の工夫をしているのか学ぶ。

派遣者:真志会(真野頼隆議員、小路貴樹議員・桑原一知議員、木戸里江議員、谷口明弘
紀 理

瀬戸内海に沈む美しい夕陽や瀬戸大橋のライトアップが楽しめる絶好のロケーション。「恋人の聖地」に認定されておりデートスポットとしても人気があるそうだ。恋人の聖地にまつわるモニュメントも設置されており、通路には、アーチ形の鉄製の柵が設置されており、そこにはカップルが二人で取り付けたであろう無数のカギがかけられていた。水俣の恋人の聖地ももう少し、手を加えられないか、考えたいところである。

総面積5.6HAの園内には、複合施設の「うたづ海ホテル」、家族連れに好評の「遊具広場&芝生広場」、塩づくり体験ができる「復元塩田」などがあり、海沿いには遊歩道も整備されている。

また、グッドデザイン賞を受賞したという公衆トイレが目をつけた。

うたづ海ホテル…特産品販売コーナー、FMスタジオ、映像資料コーナーなど



